三菱重工、三菱電機、川崎重工、IHI、NEC、東芝、日本製鋼所の7社が防衛産業界の大手

兵器は金食い虫

第211通常国会が1月23日始まった。去年12月16日安保3文書（「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」）を閣議決定し、防衛方針を大きく変更したことに対して憲法との関係も含めて厳しく質されることを多くの人が期待しているはずである。

ところが「政府は2月3日、防衛力の抜本的強化に必要な一部財源を確保する特別措置法案を閣議決定し、国会に提出した。（中略）財源の不足分を増税で賄う政治方針には、野党に加え与党内からも異論が上がる。今国会の重要テーマである防衛財源を巡る攻防が本格化する。（後略）」（福島民報2月4日）との報道のように、防衛方針の転換という憲法違反そのものを議題とせず「金をどうする」と同じ土俵で相撲を取りそうである。

さて岸田首相は12月16日「防衛費を増やすとは戦車や飛行機やミサイルを増やすこと。」と記者会見で語った。兵器を増やせば後は金は必要ないだろうか。大砲一門増やしたとしよう。演習でも野原においただけでは役に立たない。砲弾を始め、砲が有効に稼働するためには多くの資材と機械類が必要である。何より操作する人員が必要であるし、多くの食糧を用意しなければならない。これが戦闘となると相手の砲弾が飛んでくるのである。戦争は莫大な兵器と物資の消耗であり、兵器を一度買えば後は1円もかからないのではない。

今から80年前の1943年2月、日本はガタルカナル島でアメリカと戦い参加兵員3万1404人のうち約5,000～6,000人の戦死者、約1万5,000人の戦病死者（多くは食糧不足からの餓死）を出し、残った1万654人を救出して敗北した。（五味川純平著作集第11巻三一書房1985年を参照）

この飢餓がどのようなものであったか当時第二師団衛生隊にいた遠藤清吾上等兵（二本松）の日記の一部を紹介する。「12月13日～昨日とらえおきし蛇を夕食に焼きて食いたるに、その美味たることを忘れがたし。惨たる洪水の跡ありし密林道を戻り、水びたしになった米を待ちおりし戦友に渡す。任務を果たし安心せり。米一合八勺をいただく。」（ふくしま戦争と人間2　P 、299　福島民報社昭和57年）

ちなみに安保3文書閣議決定後の記者会見の行われた12月16日の首相の食事会場を調べてみた。昼はホテルニューオータニ日本料理「千羽鶴」（ランチで12,650円より）、夜はすき焼店「岡半」（ディナーで22,770円より）であった。（店舗名は首相動静12月17日福島民報。料金はそれぞれの店舗のホームページによる）H.O.

ｵｽﾌﾟﾚｲ　17機

いずも　空母

ｽﾃﾙｽ戦闘機　F35-A　6機

ｲｰｼﾞｽ・ｱｯｼｮｱ　2基

防衛費これだけで、1兆2191億円だ。
大学など教育の無償化、介護施設などへ9,000億円。災害対策ﾚｯﾄﾞ・ｻﾗﾏﾝﾀﾞｰ10台で11億円。

どっちを選ぶ？